事例:大阪大学における本部URAのキャリアパス

特徴:URAの入口の多様性

● 業務の視点を大阪大学の価値観に 閉じないようにするため

● アイデアの引き出しを増やすため

は大学の価値観に るため しを増やすため シンクタンク管理職 民間企業管理職 自営業者 他部局URA 研究資金配分機関経験者 他大学URA 副学長や 副理事 のクラス

URAとして、職務内容に係る専門的知識又は業務経験を有し、

それをもって職務を遂行する者

URAが副学長に任命 された(2013~2015) ことが学内における URAの認知度向上に 大きく寄与した

適用対象者 URAの呼称 URAとして、職務内容に係る極めて高度な専門的知識及び優 シニア・リサーチ・ れた業務経験を有し、それをもって職務を遂行するとともに、 マネージャー URAを統括し、また育成を担当する者 博士課程修了者 URAとして、職務内容に係る特に高度な専門的知識又は業務 リサーチ・ 経験を有し、それをもって職務を遂行するとともに、シニ マネージャー ア・リサーチ・マネージャーを補佐する者 チーフ・リサーチ・ URAとして、職務内容に係る高度な専門的知識又は業務経験 を有し、それをもって職務を遂行する者 アドミニストレーター

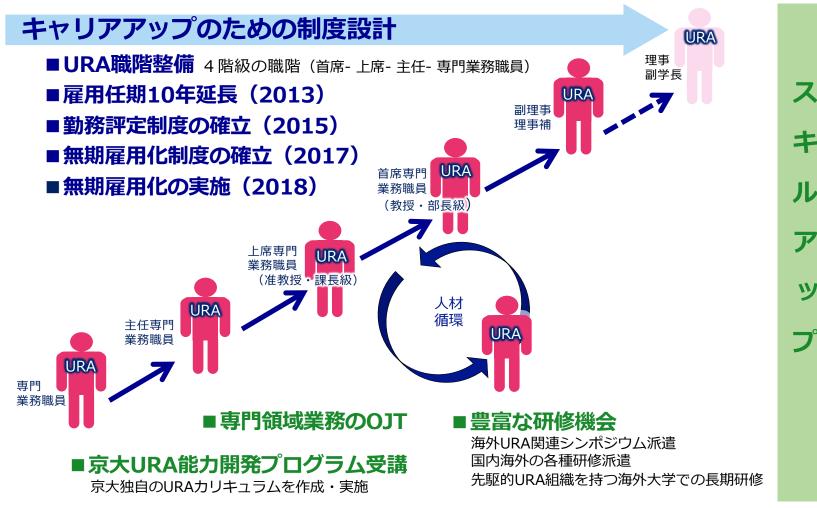
リサーチ・

アドミニストレーター

研究大学コンソーシアムシンポジウム(2017年12月6日)大阪大学 八木理事発表資料より

220519

事例:京都大学におけるURAのキャリアパス



事例: 奈良先端科学技術大学院大学におけるURAのキャリアパス

URAの活用



URAの雇用・配置

- 12名を配置
- ✓ 6名を自主財源雇用 7
- ✓ 5名を研究大学強化促進事業雇用
- ✓ 1名を自主財源雇用に切替 (承継教員の准教授)

URAの役割

- ◆研究戦略策定支援(2名)
- ◆研究支援(2名)
- ◆ 国際連携支援(2名)
- ◆ 産官学連携支援(6名)
- ◆ その他関連専門業務(全員)

URAの職務環境の整備

■ URAの人事制度と キャリアパスの整備



研究推進機構

研究推進部門

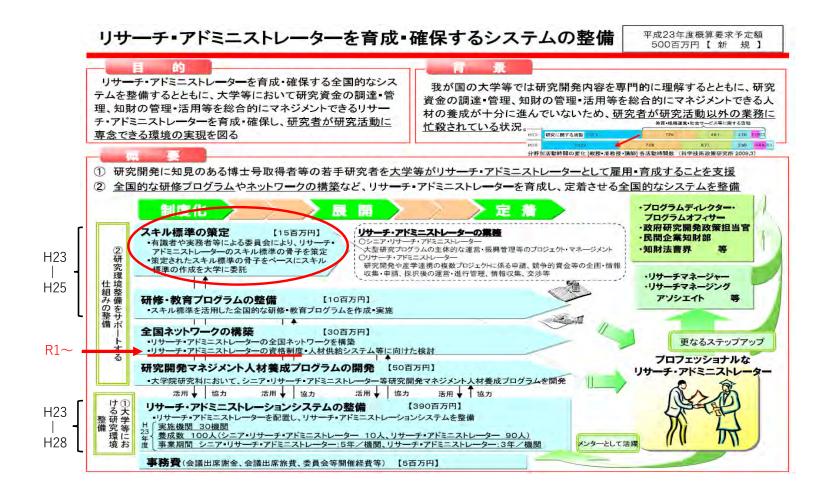
毎年度の人事評価(業績、職務・プロセス): 昇進に反映 5年任期 (無期雇用転換審査を経て) (3年+2年) 無任期

奈良先端科学技術大学院大学国際シンポジウム「世界にみる大学強化のための研究推進体制と戦略」(2018年2月6日)における 飯田元研究推進機構研究推進部門長の講演「奈良先端大における研究力強化の取組とURAの活用」より

URAスキル認定制度について



文部科学省平成23年度概算要求(平成22(2010)年8月)



URAスキル認定制度に関する国の政策

リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の実施

令和3年度要求額 (前年度予算額

: 59百万円 : 53百万円) リサーチ・アドミニストレークー活動の 強化に関する権討会(第11回) 会和2年10月1日(木)開催【資料3】

背景·課題

Oリサーチ・アドミニストレーター(URA)については、大学等において研究戦略、研究支援、 産学連携等に関する業務の担い手としてURAに寄せられる期待が高く、平成23年度以降、 その期待に応えるべく各種整備事業等を通じて大学等への配置支援を進めてきた。

Oしかし、URAの配置が全国的に進む一方で、専門的な研修機会の不足や、専門人材とし てキャリアアップできる体系的なシステムの構築など、実務能力の可視化や雇用環境の在 り方といった質的観点からの課題が生じている。

OURAのさらなる質的充実を図るため、現在、質保証制度開始(令和3年度)に向けた具体 な調査・試行を行っている。制度開始により質の高いURAが持続的に供給されれば、我が 国の大学等における研究機能の更なる向上はもとより、知識及び能力の可視化により、 URAのキャリアパス構築につながると考えられる。

研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ(令和2年1月23日総合科学技術・イノベーション金融決定)

URAのキャリアパス構築に資する質保証制度の創設 (2021年度)

- Telephone of the state of the

認定制度は、実務経験と研修の受講を基に人材育成の観点から実施 ·URAの知識・能力の向上

・客観的な実務能力の可視化(保証)を通じた信頼関係確立

質の高いURAの持続的供給と安定的な雇用環境整備による 教育研究機能の強化

事業概要

【事業の目的・目標】

認定制度の実施に際し、URAに必要とされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供 や、実務能力を踏まえた客観的な質保証(認定)を行うため、それらを行う認定機関の運営 を支援する。

想定される業務

- 認定機関における各種会議運営、
- ▶ 研修の企画・実施及び関連の管理業務 (受講生募集、講師依頼、テキスト作成依 頼、会場手配、受講者情報及び受講記録の管理等)
- 認定実施及び関連の管理業務(申請者情報の管理、審査員依頼、審査運営等)
- > その他、上記に付随する事項

[事業スキーム]





認定機関 (認定及び研修の実施)

R3年度事業規模 55百万円程度

【事業スケジュール】

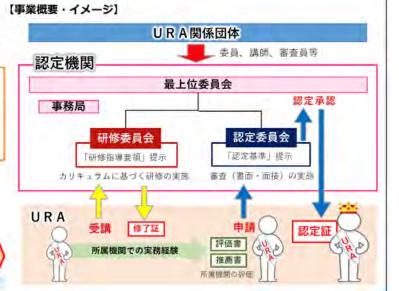
R2年度(2020) ◆試行·検証

R3年度(2021)~

◆ 認定機関設置及び認定制度の実施

委託調查

制度実施の補助金



URAの質保証に資する認定制度に関する文部科学省の調査や検討等

「リサーチ・アドミニストレーターの質保証に資する認定制度の導入に向けた論点整理」

(H30年9月)

- 1. URAを巡る現状・課題
- 2. 質保証の意義

質保証の取り組みのひとつとしての認定制度

3. 認定制度

検討の視点・認

- ・ 認定を付与するURAの位置付け
- URAが果たす役割の多様性や認定の公正性・公平性
- 認定対象者, 申請要件, 認定基準, 審査方法 ¬ スキル標準 (東京大学 H26年3月)
- ・ 認定の対象範囲、業務とレベル 等

」」を土台として検討すべき

R1年度事業 と呼ぶ

文部科学省令和元年度科学技術人材養成等委託事業

「リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の構築に向けた調査研究」

- URA人材の定義と認定URA、認定専門URAの人材像
- 制度の概要と審査書類の検討と一部試行
- 研修プログラムの検討と一部試行

受託機関: 金沢大学

R2年度事業 と呼ぶ

文部科学省令和2年度科学技術人材養成等委託事業

「リサーチ・アドミニストレーターの認定制度の実施に向けた調査・検証」

• R1年度事業で検討した認定スキーム(研修プログラムと審査)に基づく試行

受託機関: 金沢大学

R3年度事業 と呼ぶ

文部科学省令和3年度科学技術人材育成費補助金 (R3~R5:3年間の補助事業)

「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」

• 研修と認定の一部本格実施と課題の検討(特にAdvancedレベルの研修)

実<mark>施機関:</mark> RA協議会

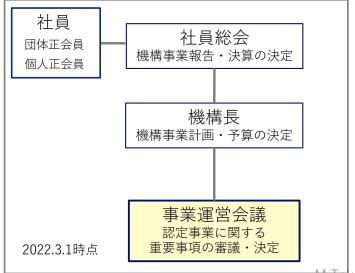
一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構(URAスキル認定機構)

URAスキル認定機構 2022.1.25設立

機構長:山本 進一 (豊橋技術科学大学 理事・副学長)

目的

大学等に属するURA等の研究マネジメント人材に係る質保証の取組みを通じて、我が国の大学等の研究戦略の立案、研究推進の支援から経営全般に至る研究環境の充実とイノベーションの創出に寄与すること





一般社団法人

リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構

Japan Certification Board for Research Administration and Management Skills

事業

- (1) 認定の申請要件となる研修の実施とそれに関連する業務
- (2) 認定に必要な審査の実施とそれに関連する業務
- (3) 認定及び認定証の発行とそれに関連する業務
- (4) URAスキル認定制度の普及・定着に関連する業務
- (5) URAスキル認定制度の評価とそれに関連する業務
- (6) その他、当法人の目的を達成するために必要な業務

【団体正会員】

(4団体)

各団体の代表者は未定

- 医療系産学連携ネットワーク協議会(med U-net)
- 一般社団法人 大学技術移転協議会(UNITT)
- 多能工型研究支援人材育成コンソーシアム(多能工)
- 一般社団法人 リサーチ・アト ミニストレーション協議会(RA協議会)

【個人正会員】

【協力団体(仮称)】

(2団体)

- ·学術研究懇談会(RU11)
- ・研究大学コンソーシアム(RUC)

【関係団体(仮称)】

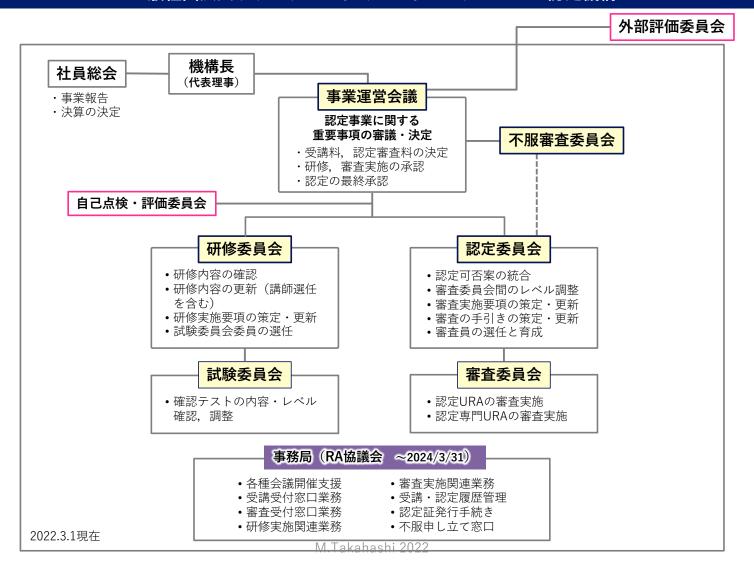
(調整予定) (1団体)

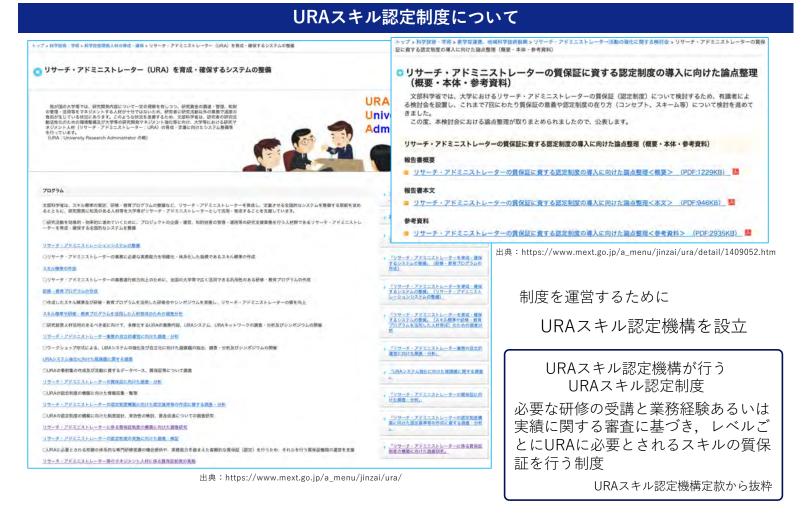
·国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

220519

M.Takahashi 2022

一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構





文部科学省の政策の一環として構築された認定制度

220519 M.Takahashi 2022 53